

江戸東京たてもの園

EDO-TOKYO OPEN AIR ARCHITECTURAL MUSEUM



江戸東京たてももの園のあらまし

■設立の趣旨

東京の歴史をふりかえると、江戸の昔から火災・水災・震災・戦災などにより、多くの貴重な歴史的建造物が失われてきました。現在もまた、社会・経済の変動に伴って、こうした文化遺産が失われつつあります。

東京都は1993年(平成5)、東京都江戸東京博物館の分館として、敷地面積約7haを擁する「江戸東京たてももの園」を開設しました。当園では、現地保存が不可能な文化的価値の高い歴史的建造物を移築し、復元・保存・展示するとともに、貴重な文化遺産として次代に継承することを目指しています。

■展示について

《ビクターセンターの導入展示》 江戸東京の建築の歴史や建物の構造など、園内の観覧に役立つ展示などを行っています。

《復元建造物と生活情景再現展示》 都内に存在した江戸時代前期から昭和中期までの文化的価値の高い歴史的建造物を移築し、外観や内装を復元・展示するとともに、内部に生活民俗資料などを展示し、それぞれの時代の生活や商いの諸相を再現しています。

《遺跡・遺構の展示とまちなみの再現》 旧武蔵野郷土館が調査・収集した考古・歴史・民俗資料や歴史的建造物の遺構などを屋外展示しています。また、復元建造物によって、下町と山の手のまちなみが再現されています。

《旧武蔵野郷土館資料の展示・特別展》 旧武蔵野郷土館から引き継いだ資料の展示や復元建造物、多摩地域の歴史などに関する特別展を開催しています。

旧武蔵野郷土館とは

江戸東京たてももの園が開設されたこの地には、1991年(平成3)まで「武蔵野郷土館」が、原始・古代から近・現代にいたる武蔵野の生い立ちをテーマに、さまざまな博物館活動を行っていました。江戸東京たてももの園は、旧武蔵野郷土館の貴重な資料を引き継ぎ、その資料を展示室と屋外に展示しています。

■普及事業について

江戸東京たてももの園をより深く理解し、親しんでいただくために、園の資料や環境を生かした「普及事業」や「特別展」、「セミナー」などさまざまな催しを実施しています。

《ミュージアムトーク》 学芸員による園内の建造物などの解説案内を、毎月第4土曜日の午後2時30分から30分程度行っています。(日時は変更される場合があります。)

《四季を通じた催し》 かつての生活の情景を再現することで、建物がどのように使われていたかを体験していただくため、こどもの日やお正月、開園記念日などの節目に建物を利用した催しを行っています。また、夏や秋には夜間特別開園として「下町夕涼み」や「紅葉とたてもものライトアップ」などにより、建物に灯りをとむすことで、夜のまちなみをご覧いただくことができます。さらに西ゾーンの網島家(農家)では、伝統的な日本の年中行事を再現しています。



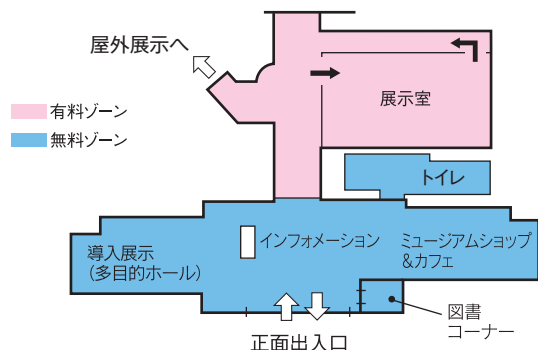
夜間特別開園「紅葉とたてもものライトアップ」(11月下旬)



網島家年中行事「梅の土用干し」(7月中旬)

ビジターセンターのご案内

歴史的建造物「光華殿」を改修したビジターセンターは、江戸東京たてもんの園の正面出入口です。ビジターセンター内には、インフォメーション、導入展示(多目的ホール)、図書コーナー、ミュージアムショップなどがあり、自由にご利用いただけます。



■導入展示

江戸東京の建築の歴史や建物の構造など、園内の観覧に役立つ展示などを行っています。

■図書コーナー

江戸東京の歴史や建築、博物館に関する書籍を揃えています。

■ミュージアムショップ&カフェ

マスコットキャラクター「えどまる」のグッズや、復元建造物を撮影したオリジナル絵はがきのほか、江戸東京の建築や生活文化に関する書籍、レトロ感あふれるグッズなどを取り揃えています。ショップ奥のカフェでは、お飲み物等をご用意しています。



展示室のご案内

旧武蔵野郷土館から引き継いだ資料の展示や復元建造物、多摩地域の歴史などに関する特別展を開催しています。



休憩所と飲食施設のご案内

みせくらがた ■店蔵型休憩棟1階

東ゾーンにある店蔵型休憩棟の1階は無料休憩所となっています。



■店蔵型休憩棟2階 たべもの処「蔵」

武蔵野の伝統の味を伝える手打ちうどんや日替わり弁当をお召し上がりいただけます。



■デ・ラランデ邸内 カフェ「武蔵野茶房」

西ゾーンにある復元建造物「デ・ラランデ邸」では、邸内及びピテラスにて、喫茶やお食事をお楽しみいただけます。





山の手通りに面してさまざまな建築様式の住宅を復元・展示しています。また、さらに西に行くと、江戸時代に建てられた茅葺きの民家が並んでいます。

W1 常盤台写真場

健康住宅地として開発された郊外住宅地常盤台に建てられた写真館です。照明設備が発達していない当時、最も安定した照度を得るために、2階写真場の北側に大きな窓を設け、一定の光量となるようにすりガラスがはめこまれています。
[板橋区常盤台一丁目／1937年(昭和12)]



W2 三井八郎右衛門邸

港区西麻布に1952年(昭和27)に建てられた邸宅です。客間と食堂部分は、1897年(明治30)頃京都に建てられ、戦後に港区へ移築されたものです。また、蔵は1874年(明治7)の建築当初の土蔵として復元しました。[港区西麻布三丁目／主屋:1952年(昭和27) 土蔵:1874年(明治7)] ※東京都指定有形文化財



W3 奄美の高倉 [旧武蔵野郷土館収集]

奄美大島にあった高床式の倉庫です。湿気や鼠の害から穀物を守るために、建物本体を地面から高くあげています。このような高床式の建物は、東京都の八丈島などにも見られます。
[鹿児島県大島郡宇検村／江戸時代末期頃] ※小金井市指定有形文化財



W4 吉野家(農家) [旧武蔵野郷土館収集]

江戸時代後期に建てられた民家です。吉野家は江戸時代に野崎村(現在の三鷹市野崎)の名主役を務めた家といわれ、式台付きの玄関や〈付書院つけしょいん〉のある奥座敷に格式を見ることができます。
[三鷹市野崎二丁目／江戸時代後期] ※小金井市指定有形文化財



W5 八王子千人同心組頭の家

八王子千人同心は、江戸時代、八王子に配備された徳川家の家臣団です。この組頭の家は、周辺の農家と比べると広くありませんが、式台付きの玄関などは、格式の高さを示しています。
[八王子市追分町／江戸時代後期]



W 6 前川國男邸

日本の近代建築の発展に貢献した建築家前川國男の自邸として、品川区上大崎に1942年(昭和17)に建てられた住宅です。戦時体制下、建築資材の入手が困難な時期に竣工しています。外観は切妻屋根の和風、内部は吹抜けの居間を中心に書斎・寝室を配したシンプルな間取りになっています。〔品川区上大崎三丁目／1942年(昭和17)〕※東京都指定有形文化財



W 7 田園調布の家(大川邸)

1925年(大正14)、郊外住宅地の一つである大田区田園調布に建てられた住宅です。居間を中心に食堂・寝室・書斎が配置されています。また、当時としては珍しく全室が洋間となっています。〔大田区田園調布四丁目／1925年(大正14)〕



W 8 綱島家(農家)

多摩川をのぞむ崖線上にあった、広間型の間取りを持つ茅葺きの民家です。広間と土間境の長方形断面の大黒柱や、オシタという古い形式の板などから、建物の歴史が感じられます。〔世田谷区岡本三丁目／江戸時代中期〕



W 9 小出邸

日本におけるモダニズム運動を主導した建築家堀口捨己が、ヨーロッパ視察からの帰国直後に設計した住宅です。当時オランダで流行していたデザインと、日本の伝統的な造形を折衷した造りになっています。〔文京区西片二丁目／1925年(大正14)〕※東京都指定有形文化財



W 10 デ・ラランデ邸

この住宅は、元は平屋建ての洋館でしたが、1910年(明治43)頃、ドイツ人建築家ゲオルグ・デ・ラランデにより3階建てとして大規模に増築されました。その後、何回か所有者が変わりましたが、1956年(昭和31)から、三島海雲がこの住宅に住んでいました。1999年(平成11)まで新宿区信濃町に建てていました。〔新宿区信濃町／1910年(明治43)頃〕



センター ゾーン

江戸東京たてももの園の出入り口になる「ビジターセンター(旧光華殿)」や展示室があるほか、「高橋是清邸」や「旧自証院霊屋」などの歴史を伝える建物が復元・展示されています。

C1 ビジターセンター(旧光華殿)

きゆうこうかてん

1940年(昭和15)に皇居前広場で行われた紀元2600年記念式典のために建設された式殿です。1942年(昭和17)に小金井大緑地(現在の小金井公園)に移築され、光華殿と命名されました。江戸東京たてももの園の開園にあたり、ビジターセンターとして改修しました。〔千代田区千代田/1940年(昭和15)〕



C2 旧自証院霊屋

きゆうじしょういんおたまや

尾張藩主徳川光友の正室千代姫が、その母お振の方(三代将軍徳川家光の側室)を供養するために建立した霊廟建築です。〔新宿区富久町/1652年(慶安5)〕※東京都指定有形文化財



C3 高橋是清邸

たかはしこれきよてい

明治から昭和のはじめにかけて国政を担った高橋是清の住まいの主屋部分です。総梅普請^{そうばいふしん}で、食堂の床は寄木張りになっています。2階は是清の書斎や寝室として使われ、1936年(昭和11)の2・26事件の現場になりました。〔港区赤坂七丁目/1902年(明治35)〕

《高橋是清邸庭園》港区赤坂にあった高橋是清邸庭園の一部を復元しています。組井筒を水源にした流れと、雪見型灯籠などを含む景観を再現しています。是清は芝生での日光浴や庭の散歩を好んだといわれています。



C4 西川家別邸

にしかわ け べつてい

北多摩屈指の製糸会社を設立した実業家の西川伊左衛門が隠居所及び接客用に建てた邸宅です。多摩地域の養蚕^{ようさん}・製糸業が最盛期をむかえた時期(大正期から昭和初期)に建てられ、よく吟味された部材が使われています。〔昭島市中神町二丁目/1922年(大正11)〕



だてけもん
C5 伊達家の門 [旧武蔵野郷土館収集]

旧宇和島藩伊達家が、大正時代に東京に建てた屋敷の表門です。《起り屋根》の片番所を付けるなど、大名屋敷の門を再現したような形をしています。総檜造りで、門柱の上に架けられた冠木には、宇和島藩伊達家の家紋が木彫で施されています。

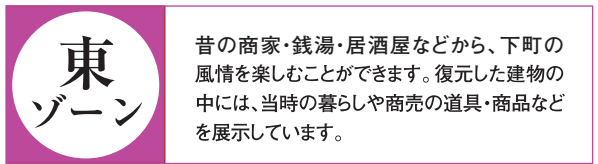
[港区白金二丁目／大正期]



かいすいあん
C6 会水庵

宗徧流の茶人、山岸宗住(会水)が建てた茶室です。1957年(昭和32)、劇作家の宇野信夫が買い取り、西荻窪に移築しました。本畳三枚と台目畳一枚からなる三畳台目の小間の茶室です。

[杉並区西荻北五丁目／大正期頃]



昔の商家・銭湯・居酒屋などから、下町の風情を楽しむことができます。復元した建物の中には、当時の暮らしや商売の道具・商品などを展示しています。

てんみょうけのうか
E1 天明家(農家) [旧武蔵野郷土館収集]

江戸時代、鶴ノ木村(現在の大田区内)で重職を務めた田家です。正面に千鳥破風をもつ主屋・長屋門・枯山水庭園などに高い格式がうかがえます。[大田区鶴の木一丁目／18世紀後半]

※小金井市指定有形文化財



こでらしょうゆてん
E2 小寺醤油店

大正期から、現在の港区白金で営業していた商店です。味噌や醤油、酒類を売っていました。庇の下の腕木とその上の桁が特徴の《出桁造り》の建物です。[港区白金五丁目／1933年(昭和8)]



かぎや いざかや
E3 鍵屋(居酒屋) [旧武蔵野郷土館収集]

台東区下谷の言問通りにあった居酒屋です。震災・戦災をまぬがれた鍵屋は、1856年(安政3)に建てられたと伝えられています。建物と店内は1970年(昭和45)頃の姿に復元しています。
〔台東区下谷二丁目/1856年(安政3)〕



したてや
E5 仕立屋

明治前期に現在の文京区向丘に建てられた(出桁造り)の町家です。内部は大正期の仕立屋の仕事場を再現しています。また、室内には一般家庭には珍しいガス灯の痕跡が残っています。
〔文京区向丘一丁目/1879年(明治12)〕



こだからゆ
E4 子宝湯

東京の銭湯を代表する建物です。神社仏閣を思わせる大型の唐破風や、玄関上の七福神の彫刻、脱衣所の折上げ格天井など贅をつくした造りとなっています。
〔足立区千住元町/1929年(昭和4)〕



たけい さんしょうどう ぶんぐてん
E6 武居三省堂(文具店)

明治初期に創業した文具店です。当初は書道用品の卸をしていましたが、後に小売店に変わりました。建物は関東大震災後に建てられた〈看板建築〉で前面がタイル張りになっていて屋根の形にも特徴があります。
〔千代田区神田須田町一丁目/1927年(昭和2)〕



はないちせい かてん
E7 花市生花店

昭和初期に建てられた〈看板建築〉の花屋です。建物の前面は花屋らしくデザインされています。店内は昭和30年代の様子を再現しています。
〔千代田区神田淡路町一丁目／1927年（昭和2）〕



うえむらてい
E9 植村邸

建物の前面を銅板で覆ったその姿は、〈看板建築〉の特徴をよくあらわしています。外観は、全体的に洋風にまともっていますが、2階部分は和風の造りとなっています。
〔中央区新富二丁目／1927年（昭和2）〕



まんせいばしこうばん
E8 万世橋交番

デザインや建築様式から明治時代のものでしょうか。正式名称は須田町派出所。神田の万世橋のたもとにあり、レンガ造のため移築の時にはトレーラーでまるごと運びました。
〔千代田区神田須田町一丁目／明治後期（推定）〕



まる にしょうてん あらものや
E10 丸二商店（荒物屋）

昭和初期に建てられた荒物屋です。小さい銅板片を巧みに組み合わせて模様をかたち作り、建物の正面を飾っているのが特徴です。店内は昭和10年代の様子を再現しています。裏手には長屋も移築し、それとともに路地の様子も再現しています。
〔千代田区神田神保町三丁目／昭和初期〕



E11 村上精華堂(化粧品屋)

台東区池之端の不忍通りに面して建っていた化粧品屋です。昭和前期には、化粧用のクリーム・椿油や香水等しほす つばきあぶらを作って、卸売りや小売りを行っていました。正面に人造石洗い出しで、イオニア式の柱を表現するなど、当時としてはとてもモダンな造りとなっています。〔台東区池之端二丁目／1928年(昭和3)〕



E13 大和屋本店(乾物屋)

港区白金台に1928年(昭和3)に建てられた木造3階建ての商店です。3階の軒下を伝統的な〈出桁造り〉にする一方、間口に対して背が非常に高く、〈看板建築〉のようなプロポーションのユニークな建物です。戦前の乾物屋の様子を再現しています。

〔港区白金台四丁目／1928年(昭和3)〕



E12 川野商店(和傘問屋)

傘づくりが盛んであった江戸川区小岩に建てられた和傘問屋の建物です。内部は1930年(昭和5)頃の和傘問屋の店先の様子を再現しています。〔江戸川区南小岩八丁目／1926年(大正15)〕

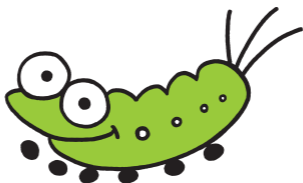


E14 万徳旅館

青梅市西分町の青梅街道沿いにあった旅館です。建物は創建当初に近い姿に、室内は旅館として営業していた1950年(昭和25)頃の様子を復元しています。〔青梅市西分町／江戸時代末期～明治時代初期〕



※〔 〕内は旧所在地と建築年代です



マスコットキャラクター「えどまる」

緑豊かな野外博物館のマスコットにふさわしい色をイメージし、虫をテーマにアニメーション監督の宮崎駿さんにより制作されたものです。

〔問い合わせ先〕

江戸東京たてもの園

〒184-0005 小金井市桜町3-7-1 (都立小金井公園内)

TEL. 042-388-3300 (代表)

FAX. 042-388-1711

<https://www.tatemonoen.jp>



発行・編集 公益財団法人東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園

2026年(令和8)3月16日 第31版発行

印刷 株式会社公栄社

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。